

抽象的でありながら生き物や機械にもみえる形。作家はどのような考えを背景に発想し、形にアプローチしたのでしょうか。バルラは、光、速度、運動などを新しい時代の美として直感的に捉えようとした未来派の一人でした。手の動きの軌跡をしなやかな曲線として捉え構成しています。

アルブは、ダダやシュルレアリスムに参加し、自由で無垢なイメージを求めました。まるでそれ自体が生命のようにも感じられる、単純で大らかな有機的形態を表しました。

ポモドーロは、極限まで磨き上げられたような抽象彫刻に感銘を受けるも、完全な形はもう必要ではないと感じ、幾何学的な立体を切り裂き、複雑で記号や機械のような凹凸を垣間見せる神秘的な形を表しました。

3人の作家によるそれぞれの形をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	ジャーコモ・バルラ	1871~1958	ボッチョーニの手の力線	1915	82.3×73.0×25.1	彫刻
2	アルナルド・ポモドーロ	1926~	球体をもった球体	1963	100.0×100.0×100.0	彫刻
3	アルナルド・ポモドーロ	1926~	半分の手紙	1977	34.2×24.7	ディープ・エッチ
4	アルナルド・ポモドーロ	1926~	土地区分に関する手紙	1977	34.2×24.4	ディープ・エッチ
5	ジャン・アルブ	1886~1966	視聴覚の形態	1942	33.5×19.5×18.5	彫刻
6	ジャン・アルブ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	30.6×19.5	木版
7	ジャン・アルブ	1886~1966	たがをはめ直された太陽	1966	30.4×24.1	木版

パブリックゾーン

イタリア近現代彫刻

2021年度 宮崎県立美術館 コレクション展
2021年 4月10日 ~ 2022年 4月5日

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	マリーオ・ネグリ	1916~1987	ジェネシスー誕生のメーブ	1973	90.5×95.0×58.0	彫刻
2	アルトゥーロ・マルティーニ	1889~1947	アマゾンの死	1935	47.6×35.0×15.7	彫刻